生物生産科　野菜・果樹コース　シラバス目次

必履修科目

課題研究	野菜コース	10-02	ｐ．２
課題研究	果樹コース	10-03	ｐ．３

２年次科目

総合実習	野菜コース	11-01	ｐ．４
野菜	野菜コース	11-02	ｐ．５
総合実習	果樹コース	11-03	ｐ．６
果樹	果樹コース	11-04	ｐ．７
食品流通	共通	11-05	ｐ．８

３年次科目

総合実習	野菜コース	11-06	ｐ．９
野菜	野菜コース	11-07	ｐ．１０
総合実習	果樹コース	11-08	ｐ．１１
果樹	果樹コース	11-09	ｐ．１２
食品製造	共通	11-10	ｐ．１３
グリーンライフ	共通	11-11	ｐ．１４

科目名	課題研究　野菜	単位数	３単位
学科・学年・コース	農業　生物生産科　３学年　野菜コース	予定時数	１０５

１　学習目標

学習した知識と技術の深化、統合化を図り、より専門性を高める。

２　指導の重点

①　主体的に課題を設定して計画を立て、課題を解決することにより、自発的・創造的な態度を育て、問題解決能力を養う。

②　一連の学習活動を通して、成就感や達成感を育て、将来の職業に対する意欲を高める。

３、学　習　内　容

【１学期】　【２学期】　【３学期】

１　課題設定と計画の立案
　(1) 課題の設定
２　育苗その他資材の準備
　(1) 年間計画表の作成
　(2) 必要な育苗や資材の準備
　(3) 育苗管理
３　予備調査
　(1) 課題の内容について詳細な予備調査の実施
４　課題の実施・記録
　(1) 記録用紙や調査用紙等の作成
　(2) テーマに沿っての実施と検証
　(3) 自己評価
　(4) 栽培管理・記録、計画の見直し
５　調査のまとめ
　(1) 調査のまとめ
　(2) 統計処理
６　報告書の作成
　(1) 報告書の作成
７　発表会の準備
　(1) 発表方法に沿った準備
８　発表会
　(1) 発表会
　(2) 自己評価
　(3) 相互評価
　(4) 集録の作成
９　テーマ例
　(1) 栽培試験プロジェクト
　　①キュウリの接ぎ木に関する研究
　　②キュウリの有機質肥料に関する研究
　　③　トマトの不耕起栽培に関する研究
　　④　トマトの受粉方法試験
　　⑤　メロンの仕立て比較試験
　　⑥ナスの接ぎ木に関する研究

教科書	野菜（実教）
副教材	日本農業技術検定　傾向と対策（全国農業高等学校長協会）
備　考	時間割外総合実習１単位を含む

４、評価について

項目	内　　容
関心・意欲・態度	野菜を中心とした農産物生産への関心を高め、その重要性を認識し、実生活の部分での関わりを意識しているか。
思考・判断・表現	栽培実習において、行う作業の意味を考え、野菜の生育とってよりよい方法を選択できるか。
技術	基本的な技術を身に着け。計画を立て、技術を活用できるか。
知識・理解	基礎的・基本的知識を身に着け、プロジェクト学習の意義や役割を理解している。

科目名	課題研究　果樹	単位数	３単位
学科・学年・コース	農業　生物生産科　３学年　果樹コース	予定時数	１０５時間

1　学習目標

学習した知識や技術の深化・統合化を図り、課題解決に取り組む資質・能力の向上を目指す。

2　指導の重点

①主体的に課題を設定して計画を立て、課題を解決することにより、自発的・創造的な態度を育て、問題解決能力を養う。

②一連の学習活動を通して、成就感や達成感を育て、将来の職業に対する意欲を高める。

3　学　習　内　容

【１学期】　【２学期】　【３学期】

1）課題設定と計画の立案
　(1) 課題の設定
　(2) 年間計画表の作成
2）準　備
　(1) 必要な物の準備
　(2) 試験使用樹の栽培管理
3）予備実験
　(1) 試験内容における予備実験の実施
4）課題の実施・記録
　(1) 記録用紙や調査用紙等の作成
　(2) テーマに沿っての実施と検証
　(3) 自己評価
　(4) 栽培管理・記録、計画の見直し
5）調査のまとめ
　(1) 調査のまとめ　(2) 統計処理
6）報告書の作成
　(1) 報告書の作成
7）発表会の準備
　(1) 発表方法に沿った準備
8）発表会
　(1) 発表会
　(2) 自己評価
　(3) 相互評価
　(4) 集録の作成
9）テーマ例
　(1) 栽培試験プロジェクト
　　①果樹の鳥害対策に関する研究
　　②ブドウの品質向上に関する研究
　　③規格外モモの活用方法の研究　　など

教科書	果樹（実教出版）
副教材	
備　考	

4、評価について

項　目	内　　容
関心・意欲・態度	設定したテーマに対して自ら学び、行動し、協働して取り組もうとしているか。
思考・判断・表現	課題解決に向けた情報収集・分析・整理・調査・研究・まとめ、表現等がわかりやすく適切であるか。
技能	見通しをもって計画を立て、学んだ技術を場面で適切に活用できているか。
知識・理解	この科目の意義や役割を理解し、課題発見と解決に必要な専門的知識を有しているか。

科目名	総合実習　野菜	単位数	４単位
学科・学年・コース	農業　生物生産科　２学年　野菜コース	予定時数	１４０

１　学習目標

野菜の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、野菜の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

２　指導の重点

生徒の能力、意欲、関心が多様であることから

①野菜栽培の知識および技能の基礎・基本の充実を目指す。

②野菜栽培に対する意欲を高めることを目指す。

③料理・加工など野菜と関連する分野についても触れ、社会的な視野を広めることを目指す。

３、学　習　内　容

【１学期】　【２学期】

１　ネギ、ジャガイモの栽培計画
　(1) ネギ、ジャガイモの生態的特性
　(2) 栽培計画の作成
２　ネギ、ジャガイモの栽培及び観察
　(1) 品種と作型
　(2) 圃場の準備
　(3) 播種
　(4) 定植
　(5) 定植後の管理
　　①追肥・土寄せ
　(6) 病害虫防除
　(7) 収穫と出荷・まとめ
３　ＦＦＪ（日本学校農業クラブ）
　　（農業鑑定・意見・プロジェクト）

【３学期】

３　野菜の育苗
　(1) 育苗の目的
　(2) 育苗の施設と資材
　(3) 床土
　(4) 種子とたねまき
　(5) 発芽後の管理と生理
　(6) その他の育苗
　　①キュウリ・トマトの育苗

教科書	野菜（実教）
副教材	日本農業技術検定　傾向と対策（全国農業高等学校長協会）
備　考	時間割外総合実習１単位を含む

４、評価について

項目	内　　容
関心・意欲・態度	野菜を中心とした農産物生産への関心を高め、その重要性を認識し、実生活の部分での関わりを意識しているか。
思考・判断・表現	栽培実習において、行う作業の意味を考え、野菜の生育とってよりよい方法を選択できるか。
技能	基本的な作業・管理が確実にできるか。
知識・理解	野菜栽培に必要な知識・技術についての専門用語を覚え、理解されているか。

科目名	野　菜	単位数	３単位
学科・学年・コース	農業　生物生産科　２学年　野菜コース	予定時数	１０５

１　学習目標

野菜の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、野菜の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

２　指導の重点

生徒の能力、意欲、関心が多様であることから

① 野菜栽培の知識および技能の基礎・基本の充実を目指します。

② 実際の栽培活動を通して興味を引き出し、野菜栽培に対する意欲を高めることを目指します。

３、学　習　内　容

【１学期】
１　植物の栽培化と作物の起源
２　野菜生産の役割と動向
(1) 野菜の種類と特徴
(2) 野菜の生産と供給
３　スイートコーンの栽培・交配実験
(1) 圃場準備
(2) 播種
(3) 管理・病害虫防除
(4) 収穫（採種・調査）
【２学期】
(1) 細胞から個体へ・植物の一生
①細胞の増殖と分化
②植物の生殖細胞と受精
③植物の発生と形態形成
④植物による物質の合成
⑤植物体の調節
(2) 遺伝子とその働き（遺伝と変異）
①遺伝の法則
②遺伝子と染色体
③ 遺伝子の本体（ＤＮＡ）
④ 遺伝子のはたらき
(3) ＦＦＪ（日本学校農業クラブ）
① レポート作成の基礎
② 計画・調査・レポート作成
【３学期】
４　野菜の栽培環境と生育調節
(1) 光環境
(2) 温度環境
５ 人工環境における栽培技術
(1)　露地栽培
(2)　施設栽培

教科書	野菜（実教）
副教材	日本農業技術検定　傾向と対策（全国農業高等学校長協会）
備　考	

４、評価について

項目	内　　容
関心・意欲・態度	野菜を中心とした農産物生産への関心を高め、その重要性を認識し、実生活の部分での関わりを意識しているか。
思考・判断・表現	栽培実習において、行う作業の意味を考え、野菜の生育とってよりよい方法を選択できるか。
技能	基本的な作業・管理が確実にできるか。
知識・理解	野菜栽培に必要な知識・技術についての専門用語を覚え、理解されているか。

科目名	総合実習（果樹）			単位数	４単位
学科名	生物生産科	学　年	２学年	予定時数	１４０時間

1　学習目標

果樹の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、果樹の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

2　指導の重点

生徒の能力、意欲、関心が多様であることから

①果樹栽培の知識および技能の基礎・基本の充実を目指す。

②果樹栽培に対する意欲を高めることを目指す。

③食品製造など果樹と関連する分野についても触れ、社会的な視野を広めることを目指す。

3、学　習　内　容

【１学期】

1）果樹の栽培管理

(1) ほ場で栽培している種類・品種について

(2) 結実確保（人工受粉など）

(3) 着果調節

①摘蕾、摘花、摘果　②薬剤摘果(花)

③花穂整形、摘粒、摘房

(4) 病害虫防除

(5) 除草

(6) 学校農業クラブ活動

（意見研究発表会、農業鑑定競技会）

【２学期】

(6) 夏季管理

①徒長枝切り　②支柱立て　③誘引　など

(7) 鳥害対策

(8) 台風対策

(9) 収穫前管理

①落果防止剤　②着色向上

(10) 収穫、販売

①熟度・収穫適期判断　②果実品質・食味調査　③販売準備　④販売　⑤貯蔵

2）土壌管理と施肥

(1) 施肥　(2) 連作障害と対策

【３学期】

3）整枝、剪定

(1) 剪定の基本　(2)樹形　(3)仕立て方　など

4）新植、栽培樹・品種の更新

5）栄養繁殖（接ぎ木、挿し木、取り木等）

教科書	果樹（実教出版）
副教材	
備　考	時間割外総合実習１単位分を含む。

4、評価について

項　目	内　　容
関心・意欲・態度	果樹を中心とした農産物生産への関心を高め、その重要性を認識し、実生活の部分での関わりを意識しているか。
思考・判断・表現	栽培実習において、行う作業の意味を考え、果樹の生育とってよりよい方法を選択できるか。
技能	基本的な栽培管理が確実にできるか。
知識・理解	果樹栽培に必要な知識・技術についての専門用語を覚え、理解されているか。

科目名	果　樹			単位数	３単位
学科名	生物生産科	学　年	２学年	予定時数	１０５時間

1　学習目標

果樹の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、果樹の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

2　指導の重点

生徒の能力、意欲、関心が多様であることから

①果樹栽培の知識および技能の基礎・基本の充実を目指します。

②実際の栽培活動を通して興味を引き出し、果樹栽培に対する意欲を高めることを目指します。

3　学　習　内　容

【１学期】　【２学期】　【３学期】

1）果樹を学ぶにあたって

2）果樹の種類と果樹栽培の動向

(1)果樹の種類と果実の利用

(2)果樹栽培の動向

3）ナシの栽培

(1) 来歴と適地

①ニホンナシ、西洋ナシ、中国ナシの来歴

②栽培の現状　③適地と分布

④品種の移り変わり

(2) 発育と生理生態

①発芽と開花　②栄養成長と生殖成長

③養分転流

4）リンゴの栽培

(1) 来歴と適地

①栽培リンゴ　②栽培の現状　③適地と分布

④品種の移り変わり

(2) 発育と生理生態

開花と果実肥大、花芽分化と結果習性

5）プロジェクト学習（農業クラブ FFJ 検定）

①計画　②調査・研究　③調査結果のまとめ

④レポート作成　⑤面接（口頭試問）

6）果樹の生育と栽培環境

①果樹の生育と生理、果樹栽培と環境

②土壌管理と施肥

7）果実の加工利用（ジャム、コンポート等）

教科書	果樹（実教出版）
副教材	
備　考	農業クラブ FFJ 検定　中級・上級位

4、評価について

項　目	内　　容
関心・意欲・態度	果樹を中心とした農産物生産への関心を高め、その重要性を認識し、実生活の部分での関わりを意識しているか。
思考・判断・表現	栽培実習において、行う作業の意味を考え、果樹の生育にとってよりよい方法を選択できるか。
技能	基本的な栽培管理が確実にできるか。
知識・理解	果樹栽培に必要な知識・技術についての専門用語を覚え、理解されているか。

科目名	食品流通			単位数	２単位
学科名	生物生産科	学　年	２学年	予定時数	７０時間

１　学習目標

農産物や農産物を原料とする食品の流通に必要な知識と技術を習得させ、食品の特性と流通構造を理解させるとともに、食品の流通と管理の合理化を図る能力と態度を養う。

２　指導の重点

農作物や食品の流通に必要な知識と技術を習得させる、また、流通構造を理解させる。

３、学　習　内　容

【１学期】

１　現代生活と食品流通

(1) 流通の始まりと発展

(2) 流通の働き

(3) 食品流通の役割

２　経済活動と食料

(1) 経済発展と食料消費

(2) 世界の食糧事情

(3) 日本の食生活と食糧需給

【２学期】

３　食品流通のしくみと働き

(1) 食品流通の特徴

(2) 食品流通のしくみ

(3) 価格形成と流通経費

４　おもな食品の流通

(1) 米の流通

(2) 麦の流通

(3) 青果物の流通

(4) 畜産物の流通

(5) 加工食品の流通

(6) 農産物の輸出入

【３学期】

５　食品の品質と規格

(1) 食品の品質と安全性

(2) 品質と品質保証

(3) 規格、表示と検査

６　食品マーケティング

(1) 食品市場の調査

(2) マーケティングの意味と発展

(3) マーケティング戦略の手法

(4) 食品マーケティングの実際

教科書	食品流通（実教）
副教材	
備　考	

４、評価について

項目	内　　容
関心・意欲・態度	食品製造・食品衛生に関心を持ち、その重要性を認識し、授業に意欲的に取り組み、創造的・実践的な態度を身につけている。
思考・判断・表現	食品流通と食品産業について自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技能を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。
技能	食品製造に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その成果を的確に表現する。
知識・理解	食品製造・食品衛生に関する基礎的・基本的な知識を理解している。

科目名	総合実習　野菜	単位数	４単位
学科・学年・コース	農業　生物生産科　３学年　野菜コース	予定時数	１４０

１　学習目標

野菜の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、野菜の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

２　指導の重点

生徒の能力、意欲、関心が多様であることから

1 野菜栽培の知識および技能の基礎・基本の充実を目指します。

2 実際の栽培活動を通して興味を引き出し、野菜栽培に対する意欲を高めることを目指します。

3 料理・加工など野菜と関連する分野についても触れ、社会的な視野を広めることを目指す

３、学　習　内　容

【１学期】　【２学期】

１　夏秋いちご・セルリの栽培計画

(1) 夏秋いちご・セルリの生態的特性

①栽培計画の作成

②播種

③育苗

２　夏秋いちご・セルリの栽培及び観察

(1) 品種と作型

(2) 圃場の準備

(3) 定植後の管理

(4) 病害虫防除

(5) 収穫と出荷・まとめ

３　ＦＦＪ（日本学校農業クラブ）

（農業鑑定・意見・プロジェクト）

【３学期】

３　野菜の特徴

(1) 生活と野菜

(2) 野菜の種類と分類

(3) 野菜園芸の動向

(4) 長野県の野菜園芸

４　野菜の生理と生態的特性

(1) 生育

(2) 花芽分化と、とうだち

(3) 果菜類

(4) 葉菜類

(5) 根菜類

教科書	野菜（実教）
副教材	日本農業技術検定　傾向と対策（全国農業高等学校長協会）
備　考	時間割外総合実習１単位を含む

４、評価について

項目	内　　容
関心・意欲・態度	野菜を中心とした農産物生産への関心を高め、その重要性を認識し、実生活の部分での関わりを意識しているか。
思考・判断・表現	栽培実習において、行う作業の意味を考え、野菜の生育とってよりよい方法を選択できるか。
技能	的確な作業・管理・処理を確実にすることができるか。
知識・理解	野菜栽培に必要な知識・技術についての専門用語を覚え、理解されているか。

科目名	野菜	単位数	２単位
学科・学年・コース	農業　生物生産科　３学年　野菜コース	予定時数	７０

１　学習目標

野菜の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、野菜の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。また、野菜生産の経営に必要な知識を習得させるとともに、野菜の利用法や調理法などについても興味を持たせる。

２　指導の重点

生徒の能力、意欲、関心が多様であることから

① 野菜栽培の知識および技能の基礎・基本の充実を目指します。

② 実際の栽培活動を通して興味を引き出し、野菜栽培に対する意欲を高めることを目指します。

③ 料理・加工など野菜と関連する分野についても触れ、社会的な視野を広めることを目指す。

３、学　習　内　容

【１学期】【２学期】	【３学期】
１　野菜の育苗 ２　野菜の生育特性と栽培環境の調節技術 ３　果実を利用する野菜の栽培 ４　葉や花茎を利用する野菜の栽培 ５　根を利用する野菜の栽培 ６　プロジェクト実施	６　二年間のまとめ

教科書	野菜（実教）
副教材	日本農業技術検定　傾向と対策（全国農業高等学校長協会）
備　考	

４、評価について

項目	内　　容
関心・意欲・態度	野菜を中心とした農産物生産への関心を高め、その重要性を認識し、実生活の部分での関わりを意識しているか。
思考・判断・表現	栽培実習において、行う作業の意味を考え、野菜の生育とってよりよい方法を選択できるか。
技能	基本的な作業・管理が確実にできるか。
知識・理解	野菜栽培に必要な知識・技術についての専門用語を覚え、理解されているか。

科目名	総合実習（果樹）	単位数	４単位
学科・学年・コース	農業　生物生産科　３学年　果樹コース	予定時数	１４０時間

1　学習目標

果樹の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、果樹の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

2　指導の重点

生徒の能力、意欲、関心が多様であることから

①果樹栽培の知識および技能の基礎・基本の充実を目指します。

②実際の栽培活動を通して興味を引き出し、果樹栽培に対する意欲を高めることを目指します。

③食品製造など果樹と関連する分野についても触れ、社会的な視野を広めることを目指す

3、学　習　内　容

【１学期】

1）果樹の栽培管理

(1) 結実確保（人工受粉など）

(2) 着果調節

①摘蕾、摘花、摘果　②薬剤摘果(花)

③花穂整形、摘粒、摘房

(3) 病害虫防除

(4) 除草

(5) 学校農業クラブ活動

（意見研究発表会、農業鑑定競技会）

【２学期】

(1) 夏季管理

①徒長枝切り　②支柱立て　③誘引　など

(2) 鳥害対策

(3) 台風対策(4) 収穫前管理

①落果防止剤　②着色向上

(5) 収穫、販売

①熟度・収穫適期判断　②果実品質・食味調査　③販売準備　④販売　⑤貯蔵

2）土壌管理と施肥

(1) 土壌改良　(2) 施肥

【３学期】

3）整枝、剪定

(1) 剪定　(2)樹形　(3)仕立て方

教科書	果樹（実教出版）
副教材	
備　考	時間割外総合実習１単位分を含む。

4、評価について

項　目	内　　容
関心・意欲・態度	果樹を中心とした農産物生産への関心を高め、その重要性を認識し、実生活の部分での関わりを意識しているか。
思考・判断・表現	栽培実習において、行う作業の意味を考え、果樹の生育にとってよりよい方法を選択できるか。
技能	的確な作業・管理・処理を確実にすることができるか。
知識・理解	果樹栽培に必要な知識・技術についての専門用語を覚え、理解されているか。

科目名	果　樹	単位数	２単位
学科・学年・コース	農業　生物生産科　３学年　果樹コース	予定時数	７０時間

1　学習目標

果樹の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、果樹の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。また、果実生産の経営に必要な知識を習得させるとともに、果実の利用法や調理法などについても興味を持たせる。

2　指導の重点

生徒の能力、意欲、関心が多様であることから

①果樹栽培の知識および技能の基礎・基本の充実を目指します。

②実際の栽培活動を通して興味を引き出し、果樹栽培に対する意欲を高めることを目指します。

③食品製造など果樹と関連する分野についても触れ、社会的な視野を広めることを目指す。

3　学　習　内　容

【１学期】　【２学期】　【３学期】

1）モモの栽培

(1) 来歴と適地

①分類　②栽培の現状　③適地と分布

④品種の移り変わり

(2) 発育と生理生態

2）ブドウの栽培

(1) 来歴と適地

①栽培の現状　②適地と分布

③品種の移り変わり

(2) 発育と生理生態

①花振るい　②果粒肥大

(3) 植物ホルモン剤の利用

3）果樹全般

(1) 収穫と貯蔵

①果実中の成分変化　②収穫後の果実生理

③西洋ナシの追熟

(2) 加工果実（クリ、渋ガキ等）の利用

(3) 繁殖と苗木の養成

繁殖法、接ぎ木苗の養成　　など

(4) 品種の特性と選び方

①品種改良の目標　②品種改良法と選び方

(5) 凍霜害対策と防止法

(6) 結果習性と整枝・せん定、仕立て方

教科書	果樹（実教出版）
副教材	
備　考	

4、評価について

項　目	内　　容
関心・意欲・態度	果樹を中心とした農産物生産への関心を高め、その重要性を認識し、実生活の部分での関わりを意識しているか。
思考・判断・表現	栽培実習において、行う作業の意味を考え、果樹の生育とってよりよい方法を選択できるか。
技能	基本的な栽培管理が確実にできるか。
知識・理解	果樹栽培に必要な知識・技術についての専門用語を覚え、理解されているか。

科目名	食品製造	単位数	２単位
学科・学年・コース	農業　生物生産科　３学年	予定時数	７０時間

１　学習目標

食品製造に必要な知識と技術を習得し、また、食品の特性と加工の原理を理解し、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

２　指導の重点

食品製造実習を通して、知識と技術を習得するとともに食生活の向上を目指す。また、生物生産科で収穫された原材料も積極的に使用し、六次産業化についても理解させる。

３、学　習　内　容

【１学期】
１　食品製造の意義と役割
(1) 食品製造の意義
(2) 食品産業の現状と動向
２　食品の変質と貯蔵
(1) 食品の変質とその原因
(2) 食品の貯蔵法
３　食品製造実習
(1) 味噌の製造実習
(2) ジャムの製造実習
【２学期】
４　発酵食品の製造
(1) 発酵食品の特徴と種類
(2) 味噌の製造
５　農直産物の加工
(1) 果実類の加工（ジャム、ジュース）
(2) 穀類の加工（パン、製菓）
(3) 豆類・種実類の加工
(4) 芋類の加工
(5) 野菜類の加工（トマトジュース）
６　食品製造実習
(1) 野菜類の加工（トマトジュース）
(2) 果実類の加工（ジュース）
【３学期】
７　食品加工と食品衛生
(1) 食品と食品衛生
(2) 食中毒
(3) 食品による危害
(4) 食品添加物

教科書	食品製造（実教出版）
副教材	
備　考	

４、評価について

項目	内　　容
関心・意欲・態度	食品製造に関心を持ち、その重要性を認識し、授業に意欲的に取り組み、創造的・実践的な態度を身につけている。
思考・判断・表現	食品製造について自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技能を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。
技能	食品製造に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その成果を的確に表現する。
知識・理解	食品製造に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、理解している。

科目名	グリーンライフ	単位数	２単位
学科・学年・コース	農業　生物生産科　３学年	予定時数	７０

１　学習目標

農業・農村が持つ多様な機能や魅力を発見し、それらを活用して人々の交流を促し、新たな余暇活動やビジネス、ライフスタイルの創造について考えながら、心身共に健康で豊かな暮らしや環境保全について理解を深める。

２　指導の重点

自分の住んでいる地域において、村おこしや地域の活性化事業等に目を向け、将来それぞれの地域に戻って活動を始めるときに、新しい視点から自分のふるさとを活性化できる材料を見つける。

３、学　習　内　容

【１学期】
１　グリーンライフとは
今なぜグリーンライフを学ぶか
２　地域の歴史と現状に学ぶ
(1) 地理的な特性
①伊那谷の自然　②自然災害　③地質の特徴
④人口動態　⑤地域の産業
(2) 地域開発の歴史と住民
①天竜川と電源開発　②交通網の整備
③過密と過疎
④大平の歴史と現在から考える
【２学期】
(3) 地域内の魅力的な活動の学ぶ
①私に暮らす地域自慢再発見　②農家民宿
③みはらしファームから地域づくりを考える
④伊那谷自然友の会の活動
⑤伊那養護学校高等部との交流
⑥南箕輪村立南部小学校との交流
⑦その他の活動（農業体験受け入れ、都農交流）
３　地域資源の利用
(1) 地域資源と風土産業
(2) 水田は地球を救う
(3) 水資源、森林資源、竹林など
(4) 地域農産物の加工と流通
(5) 観光農園や直売所の意義と現状
【３学期】
４　地域づくり考える
(1) 住民参加と住民自治
(2) グリーンツーリズムとは
①グリーンツーリズム
②ドイツや欧州のグリーンツーリズム
③国内のグランドワーク運動
(3) 私たちが期待する地域の生活環境
①子供たちにとって大切な空間を
②求める自然環境、生活環境
③高齢化社会を生きる

教科書	グリーンライフ（農山漁村文化協会）
副教材	
備　考	地域の資料や郷土出版物、先駆者の話など

４、評価について

項目	内　　容
関心・意欲・態度	農業・農村が持つ多様な機能や魅力に関心を持ち、調査や企画立案に意欲的に取り組むとともに、農業生活に関連づけて実践的に取り組もうとする態度を身に付けている。
思考・判断・	農業生産と地域の文化や料理などを多面的に考察し、長野県や地域にあった適切なグリーンライフの在り方を判断できる。
技能・表現	交流活動・市民農園・直売所などの企画、開園、運営などができる知識を身に付け、その考察を表現できる。
知識・理解	農業や農村も多面的な機能や魅力の検討やグリーンツーリズムの考え方からグリーンライフの基本的な性質について理解している。